



名古屋YWCA

キリスト教基盤に立ち、共に生きる平和な社会を実現する

2025 年度活動目標
繋がりあう力を培い、
新たな活動を共に創りだす

2025
6・7
681号

United Nations Commission on the Status of Women

国連女性の地位委員会に参加しました

第69回女性の地位委員会（CSW69）に参加し、発言の機会をいただき、ありがとうございました。

3月9日から15日までニューヨークの国連本部で開催された本会議で、沖縄の女性をはじめとするすべての人々の権利と尊厳について、世界各地の参加者と共に深く対話することができました。異なる文化や言語の壁を越え、互いの声に深く耳を傾け合えた経験は、私にとってかけがえのない学びと気づきをもたらしました。

私が最も果たしたかった役割は、「なかったこと」にされてしまう沖縄の女性の声を国際社会に伝えることでした。多くの人が沖縄の基地問題について初めて耳にする中で、彼女たちの生活を、自分と切り離したのではなく「私たちのこと」として捉えてもらうためには、対話こそが重要であると痛感しました。この期間が終わった後、それぞれ異なる地に戻っても、彼女たちの現状を心に留め、共に描く未来への責任を胸に抱き続ける、そんな時間を私たちは確かに共有できたと信じています。



日本YWCAユース派遣チームの発表テーマ
脅威のもとで暮らす—在日米軍基地問題を共に考える
UNDER THREAT: LIFE NEAR U.S. MILITARY BASES IN JAPAN

今月の聖句

「わたしは世の終わりまで、
いつもあなたがたと共にいる。」
（マタイによる福音書 28 章 20 節）

沖崎あいみ（名古屋YWCA会員）



国連本部の前で（左から2人目が筆者）

また、研修を通じて出会った世界中の仲間たちとの交流も、忘れられません。それぞれが異なる地域で課題を抱えながらも、彼女たちはただ被害を受ける存在（victims）ではなく、社会の不条理に抗い、変革を起こそうとする力強い抵抗と再生の主体（Agents of resistance and recovery）でした。暴力や差別の構造は決して一地域に限定されるものではなく、根底には共通する社会的な抑圧の仕組みがあります。そうした現実に向き合い、声を上げて行動を起こしている人々に触れたことで、私自身も問題の表層のみに着目するのではなく、その背後にある制度的・社会的なメカニズムを問い直す視点の重要性を学びました。

これまで私は、女性の権利や平和について大学や書籍で学び、自分なりに思索を重ねてきたつもりでいました。しかし、CSW69で直に感じた現場の声の力と対話の可能性は、これまでの私の固定観念を超えるものでした。「私ひとりの声に意味があるのだろうか」という迷いは、「私たちの声こそが新たな可能性を切り拓く」という確信に変わりました。

今回の研修で得た経験や学びは、単なる一過性のものではなく、これからの私自身の活動における確かな指針となりました。CSW69で出会った仲間たちの揺らがない希望とともに、これからも粘り強く、未来を切り拓く一歩一歩を踏みしめていきたいと思えます。ご支援ありがとうございました。